# 新たな露地野菜輪作体系の提案


## 要約

宇陀地域では、JA 共同出荷体制による春レタス＋スイートコーン＋秋冬ハクサイの露地野菜輪作体系が定着していたが、収益性の変化などの理由により、スイートコーン、秋冬ハクサイの作付面積が減少している。その代替品目の提案を求められていることから、今年度は春レタス＋早生エダマメ＋秋冬ブロッコリーの体系の現地実証を行った。


## 現状(背景)と課題

- 春レタスは「朝どり出荷」であることから１戸あたりの作付面積は頭打ち
- 収益性の変化などの理由によりスイートコーン、秋冬ハクサイの作付面積は減少　代替品目の提案が急務

## 目標

- 年間粗収益 100 万円/10ａ
- 作期前進による春レタス面積拡大
- 地域の条件に応じた早生エダマメ及び秋冬ブロッコリーの品種の提案と現地実証

## 活動内容

- 指導対象は JA ならけん宇陀地区白菜部会を中心に新規作付者に対しても推進
- 地域の条件に応じた栽培資料の提供と栽培講習会による作付誘導
- 現地巡回による生育状況の把握とその状況に応じた栽培指導
- 出荷規格などの検討
- 実証圃設置による経営モデル作成のためのデータの構築

## 成果

- 春レタス前進出荷　共同出荷開始日　４月 23 日（H24）→3 月 18 日（H25）
- 早生エダマメ　JA 出荷実績　０名・0a（H24）→15 名・129a（H25）
- 秋冬ブロッコリー　JA 出荷実績　13 名・60a（H24）→39 名・146a（H25）
- 新規導入品目については共同出荷を実現
- 実証圃による試算で年間粗収益 100 万円/10a 以上を達成

箱詰めされた枝付き早生エダマメ

箱詰めされた秋冬ブロッコリー


農業総合センター普及研修部普及技術課
担当：高原野菜指導係　秀田章人・小林甫


農業改良普及指導事業
東部農林振興事務所農業普及課
担当：農業指導係　木矢博之・藤田圭二
野菜価格安定対策事業

**普及活動のポイント**

・春レタスは、従来の作型＋作期前進作型と組み合わせて面積拡大
　→次年度に向けて輪作体系の面積拡大に期待
・早生エダマメは、春レタス作後のマルチとべたがけ資材の活用・無施肥で直播を推進
　→資材有効活用や無施肥で直種による低コスト・省力化、莢への泥はね防止効果など期待
・秋冬ブロッコリーは、厳寒に備えたアントシアンレス品種の導入と出荷規格を検討
　→優れた品質のものを出荷、従来の秋冬ハクサイに比べ軽量化、出荷コストの削減など期待

**対象の変化**

・普及組織からの提案を受け入れ作付面積拡大、代替品目としても充分な手応え
・早生エダマメ・秋冬ブロッコリーともにJA共同出荷体制がスタート
・春レタスも含め、作付面積に対しJA出荷量が伸び悩む状態（直売所への出荷増量が加速）

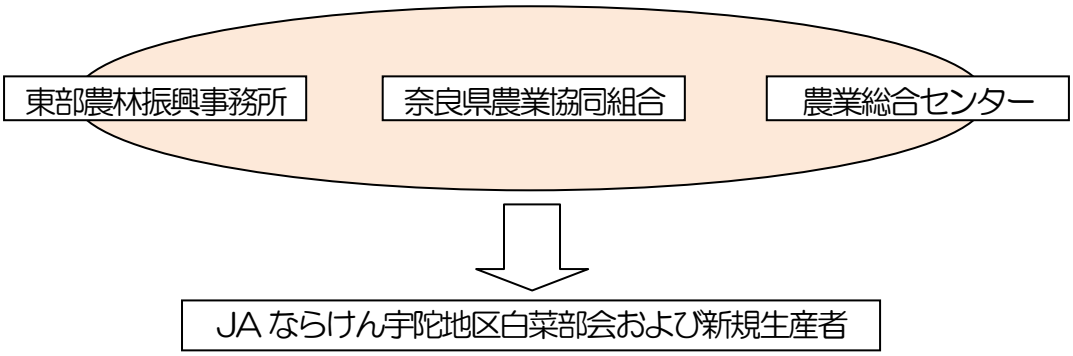
**対象者からのコメント**

・早生エダマメについては、レタス作跡播種による省力・低コストの観点から評価している。また、。秋冬ブロッコリーについては、昨年度試験的に導入し、秋冬ハクサイに比べ、軽量であること、出荷箱の経費削減・箱あたりの入り数増加により出荷コスト軽減したこと、単価が良かったことなど評価している。

**これからの活動ビジョン**

・引き続き輪作体系の定着を図り、共同出荷の増量と生産者の収益向上を目指す。特に、新規品目である早生エダマメ・秋冬ブロッコリーについては、特定野菜事業の指定が見込めるJA扱いの面積・出荷量を、具体的な数値で到達目標として設定し推進する。また、JA出荷部会組織の再編についても併せて検討するよう誘導する。

**活動体制**




用語解説

輪作
　同じ土地に生態的性質の異なる作物を一定の順序で組み合わせ、周期的に栽培すること。輪作することで、農耕地の高度利用が図れるほか、連作障害の回避、土壌構造の改善、雑草発生の抑制などの効果が期待できる。

アントシアンレス品種
　低温に遭遇しても花蕾に紫色の着色（アントシアン）がないブロッコリー品種の総称。着色が進むと品質低下とみなされ、市場評価も思わしくない。

特定野菜事業
　特定野菜供給産地育成価格差補給事業。野菜生産出荷安定法では、主要な野菜を指定野菜、これに準ずる野菜を特定野菜と称している。エダマメ、ブロッコリーともに特定野菜に属し、該当地域において作付面積や共同出荷割合の要件を達成することができれば、県はその産地を事業の対象産地として選定することができる。対象産地になれば、野菜の価格が著しく低落した場合に、生産者に補給金が交付される制度を活用できる。